

南北ネットワーク岡山と私

ここに集まれば元気がでる

成澤貴子（AMDA職員）

南北ネットワーク岡山が一〇周年を迎えられたのはめでたい、うれしい。発足当初、この集まりの名称は何がよいかと話し合ったときのことだと思います。南北問題といえば県南・県北の南北問題もある、という発言もとびだしたものでした。代表田中治彦氏、事務局長米良重徳氏をはじめとする中核メンバーの方々による息の長い支えがあればこその一〇周年であることは言うまでもありません。最近では、従来の活動を突破した「演劇」への挑戦、そしてその成功に至っては、観客として演劇の質の高さに感動を与えられた私は、メンバーの方々のご努力に対し、頭が下がるばかりでした。近ごろ、私はめつきり夜の外出がしにくくなり、例会も、そしてノリのよいことで有名な忘年会も欠席させていただいていますが、一〇年前東京からUターンした直後のこのネットワークの発足は私個人にとっても画期的なことでした。

航空母艦のような、ひとつひとつの機体（NGO）が、「ここに集まれば元気がでる」ような会にしたいと言われた代表田中氏の言葉どおり、私にとっては、暖かなそして元気のである連合活動体であり続けています。これからも一層多くの若い世代、中高年世代の参加を得て、だれもが参加しやすい活動が広がりますよ

う、末端で微力ながら応援させていただきます。



レバノン被災民に対する緊急医療活動(1996年)

南北ネットワーク岡山と AMDAの歩み

AMDA日本支部 山本 秀樹

一九八六年秋、当時岡山大学の学生であった私は元アジア・コミュニティ・トラスト(ACCT)の田中治彦氏の講演が岡山YMCAであるという掲示を見て、これは是非話を聞かねばと胸が高鳴ったのであった。

こう思うようになったのは、同年八月の香港で行われた第七回「アジア医学生会議」にさかのぼる。一九八〇年代に現AMDA代表の菅波茂らの呼びかけにより始まった「アジア医学生国際会議」は各国の医学生により毎年アジア各地で開催され、一九九六年にはインドネシアで第一七回会議が行われるにいたっている。この「アジア医学生会議」はアジア各地の医学生の間でのヒューマンネットワーク作りを目指しており、各国の医学生が会議の開催に尽力していたが、大きなスポンサーもないため国際会議を開催する上で常に資金難がつきまといっていた。しかし、この第七回の会議には当時のお金で六〇万円も出してくれたありがたいスポンサーがあったのであった。香港における会議の場で、われわれ「アジア医学生国際会議」の参加者はACCTというスポンサーの名を初めて聞かされたのであった。ACCTの何たるかは全く知る由もなかったが、ありがたい団体であることは容易に理解できた。

田中先生の講演を聞いてはじめてACCTが何であるかを知ると共に、早速「アジア医学生国際会議」への助成のお礼をのべた。そして、岡山大学教育学部の教官になられた田中先生に岡山での国際協力活動に関するご指導を仰ぐこととなった。また、岡山YMCA米良重徳氏のご協力で、数々のセミナー等の機会を利用して国際協力に関する勉強をすることができた。

こうして田中氏や米良氏のほか、成澤貴子氏(当時「若い難民を考える会」、現AMDA財務局長)、AMDAの菅波代表を加えて一九八七年「南北ネットワーク岡山」の設立へといたるわけである。当時学生だった私も学生の立場で参加することとなった。

AMDAも一九九五年に国連経済社会理事会で認定されるにいたった現在では信じ難いかもしれないが、南北ネットワークが設立された一九八七年当時は活動規模・予算も南北ネットワーク参加団体の中でも小さい部類に入っていた。南北ネットワークによって作成された岡山版NGOディレクトリーでも、実質的な活動に関する予算は年間一〇〇万円弱であった(ちなみに一九九六年度のAMDAの総予算は五億円あまり)。アジア各国の医療関係者の友好を促進することが目的とされていた。AMDA菅波代表は当時のAMDAの実体にあわなない程の壮大な構想を持っていた。その主旨は南北ネットワーク会員には幾分かは理解いただけて、国際協力セミナー等にはフィリピンやバングラデシュのAMDA支部のドクターも招聘いただく機会にも恵まれた。

AMDAが岡山という一地方の単なる友好団体から本格的な医療NGOへと脱皮する決定的な鍵は南北ネットワークにあったのである。一九九〇年私がAMDA日本支部の事務局長となってまもなく、NGO活動推進センター(JANIC)の伊藤道雄氏が南北ネットワークの招きで岡山を訪れた。伊藤氏は日本のNGO業界の要に当たる方で、田中氏とはACCT時代の同僚であった。伊藤氏はACCT在任中、先述の一九八六

年におけるAMDAの母体である「アジア医学生国際会議」に資金援助を行うことを決定した一人でもあった。ちなみに、このとき医学生としてACTに資金援助の依頼に行き説得に当たったのが当時秋田大学の学生であったAMDAの熱血漢・津曲兼司医師（前AMDA事務局次長、現JICAフィリピン母子保健プロジェクト長期専門家）であった。伊藤氏はアジア医学生会議の卒業生が活躍しているのを喜ばれるとともに、菅波代表の持つ「多国籍医師団構想」に共感を示しJANICにAMDAが参加する機会を作っていた。また、一九九一年に開始することが決まっていた「郵政省国際ボランティア貯金」初代室長の熊谷豊氏や外務省NGO支援室の木本博之室長等のキーパーソンを数々紹介してくださった。

これまで、東京近辺のNGO以外には情報が乏しくてこれらの制度の活用ができなかったが、実際の事業の申請を行うことができるようになった。そして、一九九一年の郵政省国際ボランティア貯金助成事業による「ネパール国ビシユヌ村地域保健プロジェクト」、一九九二年の外務省NGO事業補助金事業「ブータン難民保健医療プロジェクト」がAMDAとして初めて承認された。これらの公的な資金の活用によって、一八四年のAMDA設立以来ようやく本格的な医療NGOとしてのテイクオフを行うことができたのである。

また、南北ネットワークを通して知り得た伊藤氏を介して全国のNGOとAMDAの間でネットワークが進んだ。NGO活動推進センターの主催する「全国NGOの集い」にもAMDAから菅波代表が参加した。この全国のNGOのネットワークがもとになってAMDAとほかのNGOが連携する一九九二年のソマリア難民救援プロジェクトとして実を結ぶにいたった。

一方、AMDAの行う災害救援プロジェクトにも南北ネットワークの連携が発揮された。一九九三年のネパール水害では、ネパールで救援活動を行っている「ネパールやぎの会」と連携してネパールにおける救援活動にあたった。この救援活動が、「国際協力劇『明日はきっと晴れる』」の製作につながったことはいままで

もない。このほか一九九五年一月の阪神淡路大震災の救援活動時には、たんぼまん（小川輝樹氏）ら南北ネットワークで知り合ったボランティアの方々が次々とAMDA本部に来てくれて救援物資の手配などに尽力してくれたことは感謝にたえない。

岡山内部のNGOのネットワークに関しては、県外から来られた国際協力関係者からNGO間の連携が良いと羨ましがられることが多かったが、一九九四年一〇月には「第一回NGOサミット」がAMDAをはじめとしたNGO、企業、学校等から構成される「岡山トピア国際貢献を推進する会（OTIC）」主催で開催され世界各地のNGOが集うにいたった。ジュネーブに国連機関の人道援助機関が集い、岡山に人道援助の民間団体が集うことを目的とするものである。現在では、「西のジュネーブ、東の岡山」というキャッチフレーズが岡山市民の間で定着するほどになった。この岡山が誇るべき大きな国際シンポジウムの名司会を毎年務めているのが南北ネットワークメンバーである田淵やすこ氏であることも忘れてはならない。

当初、南北ネットワークができたころ、「岡山県の県北と県南のネットワークですか？」と間違われることもあった。AMDAでも岡山市だけでなく過疎の自治体とも連携を深めている。加茂川町とはソマリア難民救援、哲多町とはミャンマー支援といった具合である。瀬戸内の交通の要所といわれる岡山に本部をおくAMDAとしても、「県北と県南のネットワーク」という意味での地域おこしと国際化に貢献していきたい。

最後に私他AMDAの面々が最近、南北ネットワークの会合にご無沙汰している。とくに、南北ネットワークの設立時の発起人の一人というキーパーソンであった成澤氏には、ふとした縁で専従職員としてAMDAに来ていただくことになって以来、AMDAの過重な業務のために南北ネットワークに参加する機会を奪ってしまったことをお詫びしたいとともに設立一〇周年に免じて許していただきたい。そして、今後とも南北ネットワークが発展していくことを祈りたい。

岡山県国際協力NGOリスト

★掲載順序は次の通りです。

団体名(略称)

電話番号

FAX番号

Eメール・ホームページアドレス

住所

代表者／設立年月(西暦)／会員数

▼設立の主旨・目的／活動内容

アジアの教育支援の会(AEA)

☎086-2551-4558

☎086-2551-4557

akanama@okanet.or.jp

〒701-11 岡山市富原718-1

森 暢子／93年5月／670人

▼教育はすべての原点であるという理念から、アジア各国の子どもと女性たちの教育・福祉への支援、協力をする。／ネパールへの支援。①小学校建設とトイレ、水道設備の援助。②女性の識字教室の援助と手編みニット製品の購入活動を通して、自立のための支援をする。

AMDA(アジア医師連絡協議会)

☎086-284-7730

☎086-284-8959

<http://www.amda.or.jp>

〒701-12 岡山市植津310-1

菅波 茂／84年8月／約17000人

▼“Better Quality of Life for a Better Future”を目的に、各国の医師が主体となり相互協力を行うこと。／①海外活動全世界での難民や自然災害被災民のために、俊敏な対応をするための「アジア多国籍医師団」による緊急救援活動。国際NGOネットワークによる国際協力。②国内活動 在日外国人に対する医療相談。国際会議の開催。日本国内の災害救援活動。過疎地における地域医療活動。

アムネスティ岡山

☎086-2443-8537

☎086-233-8063

fwga4707@mb.infoweb.or.jp